

# 旭川医大 病院ニュース

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/>



編集 旭川医科大学病院  
広報誌編集委員会委員長  
谷野美智枝

## 「あすなろ」の木に寄せて

学長 西川 祐司



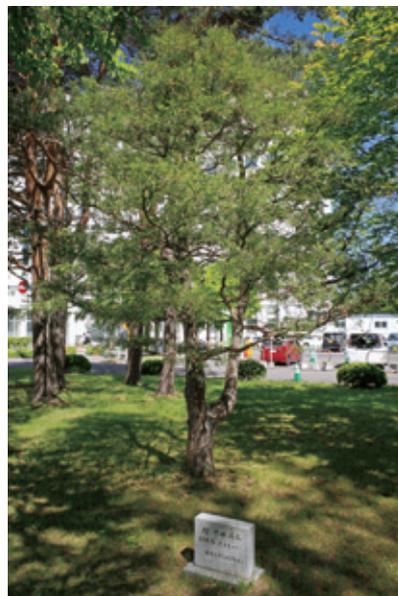
本年4月1日に学長に就任いたしました。私は本学の第6期生で、入学時に初代学長の山田守英先生に医学概論を講義していただき、医学部卒業時には第二代学長の黒田一秀先生に学位記を、そして大学院医学研究科修了時には第三代学長の下田晶久先生から学位記を授与していただきました。このような立派な先生方の後継の立場を務めさせていただくことになることは、私自身にとりまったく思いもかけないことであり、就任後2か月を過ぎた現在も不思議な気持ちが消えることはありません。これには、自分自身の能力に対する自問自答はもちろんです。本学を一度辞職した後、長い遍歴を経て教授として戻ってきたという、おそらくどなたも持っておられない私の経歴が関係しているように思います。しかし、たとえ本学にとり異端的な存在であるとしても、人生のもっとも大切な時期を旭川で過ごし、本学に対する愛着を人一倍持っていることに対しては自負があります。本学が開学以来最大の危機的な状況に陥っている中で、皆様から学長の任務が与えられたことを誇りに感じ、この試練に立ち向かう所存です。

私は、現在の病理学講座腫瘍病理分野の前身である病理学第一講座の初代教授で、その後第3代学長になられた下田晶久先生に薫陶を受けた弟子の1人です。下田先生は学長を退任される際に、ある樹木を本学に寄贈されました。その木は大学正面の緑地内にありますが、目立たない存在ですので、ほとんどの方はご存じないかも知れません。石碑には樹木名「イトヒバ」、平成3年6月24日と書かれていますので、植樹されてからまもなく31年となります。最初の頃はか細くて少々頼りない感じでしたが、現在はしっかりと形良く育ち、まわりの木々に圧迫されながらも存在感が増しているように思います。

「イトヒバ」は別名を「翌檜（あすなろ）」と言いま

す。旭川生まれの井上靖の名作『あすなろ物語』の第1話に登場する冴子は「あすは檜になろう、あすは檜になろうと一生懸命考えている木よ。でも永久に檜にはなれないんだって！それであすなろうと言うのよ」と語っています。この小説には冴子を始めとして個性あふれるたくさんの「あすなろ」が登場し、彼らと交流することで主人公が「あすなろ」として成長していく過程が愛情を込めて描かれています。私は最近この小説を読み直し、旭川医大に多くの「あすなろ」が集うことを夢見るとともに、下田先生が「イトヒバ」を本学に贈られた意味を噛みしめています。

最後になりましたが、本学病院において日々診療や教育にあたっておられる職員の皆様方に心より感謝いたします。高齢化、人口減少、働き方改革などの社会の変化に対応しながら本学病院がさらに発展し、地域の医療をしっかりと支えていけるよう、古川病院長と協力しながら、大学として最大限のサポートをしたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。





## 病院長就任のご挨拶「帰って参りました」

病院長 古川 博之

皆さんの応援と西川学長の御推挙により、4月1日付で病院長として復帰してまいりました。これまで、2018年7月より、2年半病院長を勤めておりましたので、おおよその仕事については、これまでの仕事を踏襲する形で連続性を損なわずに、本来あるべき病院の形を取り戻したいと思っております。

振り返ってみますと、2012年から10年間、病院長補佐、副病院長、病院長として勤めさせていただきました。その時はわかりませんでしたが、以前は、前学長が病院執行部の人事を決め、ほとんど病院長には実権がありませんでした。私の代になって、ようやく、人事や機器購入について優先順位を決定していくことや、病院長ヒアリングでDPC期間Ⅱ以内の退院率増加を中心とした改善が行えるようになりました。人事や機器購入についても、以前は、病院側の決定に前学長が介入するという歪んだ決定構造が存在していましたが、この4月からは病院人事や機器購入が1本化されることで、透明性のある効率的な病院運営が可能となるものと考えております。

まだまだコロナとの闘いは続きます。幸い、旭川医科大学病院ではこれまで院内感染やクラスターは起きておらず、これも日頃から皆様の感染対策へのご協力の賜物と感謝いたしております。今年1月より半年間にわたって、オミクロン株による新型コロナウイルス感染が続いておりますが重症患者はほとんどおらず、ポストコロナを見据えて少しずつ歩いていく必要があります。特に、これまでの病院への受診控えや十分な検診が受けられなかった方々の病気の発症や重症化が懸念され、進行がんの患者さんなどの増加が危惧される所です。

病院における人事面の大きな変化の1つは、精神科神経科の橋岡禎征教授が着任されたことです。橋岡教授は認知症の専門家であり、今後は、認知症を含めた積極的なリエゾン診療や精神科病棟の入院患者増加にも取り組んでいただけるとのことで病院の総合力アップに貢献していただけると期待しております。これから、できるだけ短期間に11名の臨床教授ポストを埋め

る必要があります。すでに小児科、救急科、肝胆膵外科では公募が始まりました。今後、新任の教授の皆さんには、当院の発展に大きく貢献していただけるものと思っております。

2024年の「医師に関する働き方改革」の法令制定が間近に迫っております。本院におきましても、顔認証システムの導入により勤怠管理を確実にこなせるようになっており、これを基に、年間1,860時間以内を達成するための、日・宿直時間や兼業時間を含めた勤務時間の調査などを行っているところです。当院の働き方改革の中において、医師の勤務時間を減少させる可能性があるのは外来患者の削減です。現在、2,000人/日越えの外来患者数を1,600人程度/日に減少させたいと思っており、ヒアリングでも申し上げましたように各科とも、10%の外来患者削減（特に処方箋のみの患者を中心に）を目指しておりますので、よろしくご協力申し上げます。外来患者の減少により、外来への人員の削減や、より効率的な人員の配置が可能になり、さらには、外来化学療法室の拡充も可能になり、夜遅くまでかかっている現在の業務の改善に繋がります。ご協力をお願いします。

現在、東信良副病院長（病院経営担当）、藤谷幹浩副病院長（事故防止、医療機器担当）、竹川政範副病院長（外来担当）、原口眞紀子副病院長（安全問題、患者サービス、ボランティア担当）田崎嘉一病院長補佐（医療従事者教育担当）、牧野雄一病院長補佐（臨床研修担当）加藤育民病院長補佐（コロナ対策、臨床倫理担当）という布陣で、いずれもこれからの病院運営には欠くことのできないスタッフです。これに加えて、私自身も病院経営と働き方改革に沿った視点から、各科のヒアリングを行っていく予定です。各分野の職員の不足を早めに察知し、雇用を適正に行っていくことで、旭川医科大学病院のさらなる発展を支えていく所存です。本年度は、病院長復帰1年目として、患者さんを笑顔で迎え、笑顔で送ることができる病院作りを目標にし、そのためにも、職員の皆さんとともに、生き生きとした働きがいのある職場を作っていきたいと思っております。

## 微生物学講座教授就任にあたって

微生物学講座 教授 原 英樹

2022年4月に慶應義塾大学医学部から本学微生物学講座に赴任してきました原英樹と申します。これから微生物学および免疫学の教育と研究に邁進してまいりたいと思います。不慣れな点もありますので、どうぞご指導のほど、よろしくごお願い申し上げます。

医療従事者のみなさまはご周知のことと存じますが、薬剤耐性菌や新型ウイルスなど様々な感染症が世界規模で蔓延しております。ウイルス感染は急速に拡大する一方で、細菌感染は徐々に薬剤耐性を獲得してきており、2050年にはがんによる死者数を追い越すとの試算も出されています。現代社会において、新型コロナウイルス感染症は最も警戒して対応すべき医療問題の1つです。しかしながら、本学には新型コロナウイルスを取り扱う基礎研究施設がいまのところありません。そこで、微生物学講座としてはもう1つの国際的問題となっている薬剤耐性菌をメインに基礎研究を展開していこうかと考えております。世界と比べて日

本では微生物学研究者が激減しており、日本で感染症研究の拠点のなり得る施設も限られております。幸いにも、旭川は微生物研究が行いやすい環境ですので、いつの日か日本を代表する感染症研究拠点の1つとなれるように研鑽を積んでいきたいと思っております。

私たちは、感染症の病態解明と既存法に置き換わるような斬新な感染制御法の創出を目指して、病原体と免疫応答、常在菌などの相互作用に着目して研究を行っていきます。研究をすすめるにあたり、出身大学や学部を問わず、随時、大学院生やポスドクなどの講座メンバーを募集しています。本研究に興味のある方は遠慮なくどなたでもご連絡いただけると幸いです。日々出現する新たな病原体に立ち向かい、“人類最大の脅威”ともいわれる感染症の克服を目指して、ともに新しい世界を切り開きましょう。



## 精神医学講座教授就任にあたって

精神科神経科 教授 橋岡 禎征

令和4年4月1日付けで旭川医科大学精神医学講座教授を拝命いたしました橋岡禎征と申します。私は神奈川県横浜市出身で、平成10年に宮崎医科大学（現宮崎大学医学部）を卒業後、九州大学精神科に入局し、同大学病院を含め、関連病院で精神科臨床の研鑽を積みしました。平成18年、九州大学大学院でアルツハイマー病研究にて学位取得後、平成23年まで5年間、博士研究員としてブリティッシュコロンビア大学で神経変性疾患に関する基礎研究に従事しました。帰国後、平成24年から10年間、島根大学精神医学講座で高齢化地域における精神科医療に従事し、また講師、准教授と大学教員としての経験を積んで参りました。1度しかない人生、いろいろな土地で暮らしてみるのが悪くないと思いつつ生きてきましたが、首都圏、九州、カナダ、山陰、北海道と、実際ここまでバリエーションがつくとも思っていませんでした。

私の臨床専門分野は認知症診療です。2025年、日本人の3人に1人が65歳以上になり、認知症患者は730

万人にもおよぶと予測され、2025年問題と呼ばれています。認知症診療の重要性が今後ますます増していく中、自分の専門性を活かして、道北・道東地域の高齢化にしっかり対応できる精神科医療を展開するべく、精進していく所存です。認知症診療以外にも、高齢がん患者の緩和ケア、うつ病による休職患者への支援、発達障害に関連した子供のこころの問題に対するケアなど、現代の高齢化・ストレス社会における精神科医療のニーズは多岐にわたり、課せられた責務の大きさを深く感じております。現在、当講座のスタッフは少人数ですが、今後は人材が集う、活気ある講座をつくり上げ、教育・研究から診療まで一貫して、地域のあらゆるニーズに応えられる総合的な精神科医療拠点の構築を目指し、一生懸命努力していく所存です。皆様のご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくごお願い申し上げます。

## 臨床検査・輸血部長就任にあたって

臨床検査・輸血部長 奥村 利勝

この度、藤井聡部長の定年退職に伴い、令和4年4月より臨床検査・輸血部を担当することになりました内科学講座の奥村利勝です。当院の臨床検査・輸血部の業務は心電図・脳波・肺活量など生理機能検査、血液・尿などの検体検査、感染症にかかわる微生物検査、心臓や血管の超音波検査、染色体検査や輸血にかかわる検査などがあります。私はこれまで、一内科医として、様々な臨床検査や輸血のオーダーをしてきましたが、オーダーを受ける内部の状況には詳しくありませんでした。部署に40名弱の臨床検査技師が所属し、年間の検査件数は約400万件と全国的にも非常に高いパフォーマンスを示し、加えて、この2年間は新型コロナのPCR検査運用

により本院診療および安全な本学学生教育実施へ中心的な役割を果たしている病院の中核であることを改めて認識しました。2021年には念願であった国際規格「ISO 15189（臨床検査室-品質と能力に関する特定要求事項）」に基づき大変厳しい審査を受け、臨床検査を行う能力を有していることを認定されました。これからますます必要性が高まるがんゲノム医療の分野では、遺伝子検査の精度管理を充実させるとともに、病理部や関連部署と連携して遺伝子パネル検査などの充実にも貢献していきます。スタッフは若手も多く、毎週の勉強会も行い、私自身も勉強させていただいております。これまで同様、臨床検査・輸血部の運営にご協力をお願いいたします。



## 手術部長就任にあたって

手術部長 林 達哉

この度、9代目手術部長を拝命いたしました林達哉と申します。私は昭和61年に旭川医科大学を卒業後、合計4年間の一般病院勤務と2年間の

米国留学を除き、今日に至るまで旭川医大耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室で診療・教育・研究に携わってまいりました。平成18年から5年半ほど前任の平田先生の下で手術部副部長を務め、平成24年から医師専任リスクマネージャーとして旭川医大病院の医療安全の向上に携われたことは、今後の手術部運営の大きな礎になると自負しています。

手術部の使命は日々行われる高度な手術を医師が安全に実施できる体制を整え、患者さんに安心して手術治療を受けていただける環境を提供することに尽きます。一つの手術を安全確実に遂行するには多職種の協

働が欠かせません。その実現には、すべての医療者がプロフェッショナルな技術を駆使するテクニカルな側面と、良好なコミュニケーションに基づいて相互に協働する、いわゆるノンテクニカルの両面が必要なのは言うまでもありません。幸い、安全な医療の担い手として手術部スタッフの士気は高く、彼らの支えから生まれる年間8,000件に迫る手術は、病院収益の柱であり続けています。私は、このスタッフ一人ひとりが、誇りとやりがいを持ってそれぞれの力を遺憾なく発揮できる環境を整えることこそが自分の役割であり、旭川医大病院の手術医療のさらなる発展の鍵だと考えています。

微力ではありますが、一步一步着実に、小さいことからコツコツと積み上げていく所存ですので、どうかよろしくをお願いいたします。



## 材料部長就任にあたって

材料部長 大田 哲生

令和4年度より病院材料部長を仰せつかりましたリハビリテーション科の大田哲生と申します。よろしくお願いたします。先ほど今年度の第1回材料部委員会を終わらせたばかりでこの文章を書いています。これまででは病院運営委員会で原渕前部長の材料部報告をうかがっていただけでしたが、病院機能に欠かせない大事な部署であることは痛切に感じておりました。実際、委員会では医療材料の採用につき多くの委員で議論されており、安全かつ効率的な医療を行うために必要な機器の選定はもちろ

のこと、非常に厳しい価格交渉への評価が行われております。材料部の業務として院内における医療機器の回収・洗浄・点検・包装・滅菌・供給業務やベッド洗浄、またSPDセンター

における物品搬送、使用物品の実績管理、物品管理が行われており、手術部、病棟、外来などに安全な医療環境を提供すべく努力していることは皆さん御存知のことと思いますが、病院の財政面における健全な運営を目指してコスト削減にも尽力していることを改めて理解していただければ幸いに存じます。

コスト削減は日々の診療においてもちょっとした工夫でできることがたくさんあるかと思えます。日々使用する細かな医療機器を無駄なく使う努力を一人一人が行っていただければ「塵も積もれば山となる」です。ご協力をお願いいたします。

これからも安全で確実な医療機器の提供ができるように、そしてなによりも患者さんの安心につながる医療が提供できるように材料部一同努力して参りたいと思えます。皆様のお力添え、よろしくお願申し上げます。

## 企画調整役就任にあたって

企画調整役（総務・教務担当）

佐野 進

本年4月1日より、企画調整役（総務・教務担当）に就任しました佐野と申します。

出身は東京で30年余りを過ごしてきましたが、2009年に高知大学へ赴任以来、青森、山形、滋賀、京都、静岡と転々としてまいりました。北海道での生活は初めてで、これまでで一番寒く、雪の多い場所での生活となり、身体が慣れるか不安はありますが、体調に気をつけながら、がんばりたいと思います。また、折角の北海道での生活なので、仕事だけでなく、いろいろなことも楽しみながら生活できればと思っております。

これまで、課長職で主に経験してきたのは、概算要求や決算に関する事など、会計系の業務を主に行っており、前職では初めて研究所の総務や人事等を担当する、総務企画課長を経験してきましたが、今回、総務・教務担当ということで、総務や会計等の他、これまで、あまり関わりのなかった、教務や入試、図書館関係等、業務が幅広くなり、至らぬことも多いと思

ますが、皆さんにご指導をいただきながら、研鑽に努め職務を全うしたいと思います。

旭川医科大学はこれまでの、体制から一新し、執行部等が刷新され、大学においては、ガバナンスの立て直しや、財政の立て直し等、学内外に対し信頼の回復が求められているところです。また、第4期の始まりの年となり、中期目標、中期計画の達成に向け、どのようなスタートを切るか重要な年と思っております。これからの大学運営にあたって、学長のリーダーシップのもと、事務処理に努めてまいります。

これまでの、私の職員としての経験がどれだけ生かせるかわかりませんが、このたび旭川医科大学の職員の一員となりましたので、これからの、大学の発展に向け、貢献できるよう努力したいと思いますので、皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

## 遺伝子診療カウンセリング室に 認定遺伝カウンセラーが専属配置となりました！

遺伝子診療カウンセリング室 認定遺伝カウンセラー 笹川 穂の花

遺伝カウンセラーとして働き3年目となりました。昨年度までは外来ナース・ステーション所属であり、併任していましたが、看護部のご協力により今年度より遺伝子診療カウンセリング室に専属の配置となりました。先生方や外来のスタッフ、検査部の方々など、遺伝カウンセリングに関わる方々と関係性を構築できたのは外来ナース・ステーションに所属していたからこそと思っております。

各診療科の先生方よりこれまでも遺伝学的検査に関わる相談は受けていましたが、より柔軟に対応可能となります。遺伝学的検査の該当の有無を含め、遺伝学的検査に関わる遺伝カウンセリングの相談や日程調整、詳細な家族歴聴取をしたいなどというご希望があれば下記連絡先までご連絡をいただければと思います。

私自身まだまだなところがあり、ご迷惑をおかけすることが多いかと思いますが少しでもお力になればと思っております。

最近では乳がん患者さんのBRACAnalysis保険適用の方の遺伝カウンセリングが増えています。特に看護師の方は患者さんから相談を受けることも多いかと思っております。ぜひ当院には遺伝カウンセラーがいるということをお伝えいただき、つなげていただければと思いま

す。遺伝カウンセリングの前段階の遺伝相談については、当日の連絡でも対応可能な場合もありますので、お気軽にご連絡いただければと思います。

PHS：8403

メールアドレス：gc-amu@asahikawa-med.ac.jp

写真は

前：蒔田室長、後方右：笹川、後方左：事務の村岡



## がん看護専門看護師になって 外来化学療法センター 看護師 三栖 あずさ

2020年3月に旭川医科大学大学院医学系研究科修士課程高度実践コースがん看護学を修了し、翌年12月にがん看護専門看護師となりました。講義や実習のため通常勤務や長期休暇の調整を頂くなど病院や大学をはじめ多くの方々からのご支援を賜り、無事に教育課程を修了することができたことを心より感謝申し上げます。

私は、現在外来化学療法センターに所属しており、がん薬物療法を受けるがん患者さんご家族へのケアに携わっています。がん薬物療法は様々な抗がん薬の開発により日々進歩し続けています。がんと共に生きるがん患者さんご家族は多様化・複雑化する治療の選択肢に思い悩み、多岐にわたる副作用と向き合い、時に学業や就労との両立という課題も抱えながら生活されています。そのため、病状や治療内容から起こりうる症状を予測し、セルフケアに必要な知識や技術を提供し、がん患者さんご家族がそれぞれのライフスタイルに合わせて上手く症状と向き合いながら治療を継続できるような支援を心

がけています。また近年では、病院での平均在院日数の短縮による通院治療や在宅療養の増加、高齢化に伴う独居や要介護者の増加など外来でがん薬物療法を受ける患者さんご家族を取り巻く環境も変化しています。がん患者さんご家族の価値観や家族の在り方を尊重し、生活背景やサポート体制を踏まえた上で、無理なく継続できるセルフケアを患者さんご家族と一緒に考え実現できるよう努めています。

がん看護専門看護師には、【実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究】という6つの役割があります。がん医療や看護に関する専門的知識と根拠に基づいた実践力を身につけ、がん患者さんご家族の置かれた状況や価値観に寄り添った看護を目指したいと思っています。また多職種との協働、倫理的課題への取り組み、研修などの教育活動を通して役割を発揮できるよう自己研鑽を続けていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

## ロボット支援腹腔鏡下仙骨膣固定術(RSC)を導入しました 腎泌尿器外科 和田 直樹

われわれは、手術支援ロボット：Da Vinci®を用いた前立腺全摘を2014年2月に開始して以降、腎部分切除術、膀胱全摘出術また腎盂形成術を順次導入してきました。この度、2022年2月から骨盤臓器脱（pelvic organ prolapse：POP）に対するロボット支援腹腔鏡下仙骨膣固定術（RSC）を新たに開始しました。

POPは女性特有の疾患であり、膣を介した骨盤臓器のヘルニア（脱出）と考えられます。子宮が下垂する子宮脱、膀胱や直腸が飛び出てくる膀胱瘤や直腸瘤、また子宮摘出後に膣断端が下がってくる膣断端脱などに分類されます（図1）。婦人科医による治療も行われますが、POPは尿失禁や排尿困難などの原因となるため泌尿器科を受診され、われわれが診療にあたることもあります。

POPに対する外科手術には様々なものがあります。以前広く行われていたTVM手術では経膣操作によって挿入されたメッシュによる合併症（メッシュの膣や膀胱内への露出、挿入メッシュによる疼痛など）が米国を中心に報告され、2019年には米国食品医薬品局（FDA）によって

その使用が禁止されました。日本国内においても合併症の報告はあるものの米国ほど頻度は高くなく、現在も継続して施行されています。しかしトレンドはTVM手術から仙骨膣固定術へと変遷しています。

RSCでは、腹部に5か所の穴をあけて、トロッカーを挿入し、カメラやロボット鉗子を挿入します。基本的には卵巢や子宮の上半分を摘出（子宮垂全摘）しますが、年齢や希望によって温存も可能です。膀胱と膣、直腸と膣の間のスペースを作り、そのスペースにメッシュを固定して、メッシュの反対側を仙骨前面の靭帯に固定することで膣全体を頭側に引っ張り上げる手術方法です（図2）。

現在まで様々なロボット支援手術導入に協力いただいた手術場スタッフの方々、またロボット支援手術の施設基準取得のための動いてくださった事務の方々にこの場を借りて御礼申し上げます。POPは良性疾患ですが、女性のQOLを非常に損ねる疾患であり、これからも安全にRSCを施行していけるようご支援、ご協力のほど何卒よろしくお願い致します。

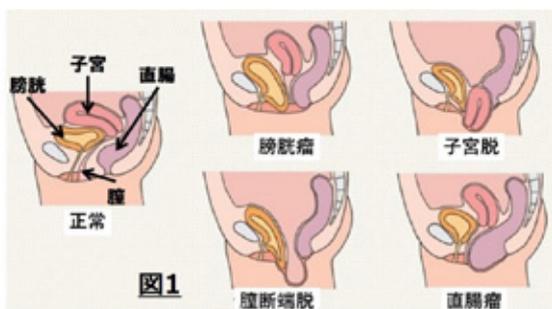


図1

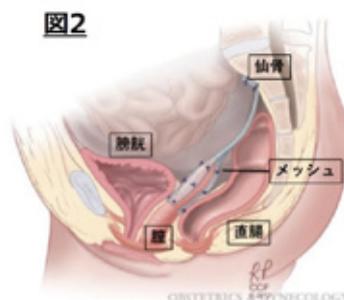


図2

## 「看護学科と看護部の教育人事交流報告会」を開催しました

看護職キャリア支援センター 人事交流部門

この度、初めての看護学科と看護部の教育人事交流報告会を3月15日に開催いたしました。看護学科と看護部の教育人事交流は、看護学科教員が大学病院へ、看護部看護職が看護学科へ一定期間赴き、看護学科教員の看護実践能力向上と看護部看護職のアセスメント能力・教育力向上を図り、看護の質向上に資することを目的としています。

教育人事交流は運用システムを構築し、2021年10月からスタートしました。看護学科からは高齢者看護学領域所属の野中雅人先生が5階西ナースステーションへ、看護部看護職からはICU所属の滝本梨奈さんが成人看護学領域に赴き、各々の交流計画に基づき学びを深めました。教育人事交流報告会は、新型コロナウイルス感染防止対策のためZoomを併用したハイブリッド形式で行い、関係者10名を除き、32名（Zoom19名、会場13名）の出席がありました。

野中先生は高齢患者に対する臨床看護の実際に加え、がん放射線療法看護認定看護師の資格を活用して、がん患者に対する放射線療法看護の実践やスタッフへの相談・指導などを実践しました。今後は、大学病院における高齢がん患者に対する治療や看護の学びを高年齢看護の教育に活かしていきたいと報告されました。会場から「教育と臨床の繋がりを感じた」ことへの質問があり、「大学教員になって看護基礎教育の実際を知り、今回、臨床で若い看護師の実践を見たときに手技や知識の具体的な活用が理解できた」と述べました。また、Zoomからも「人事交流で臨床に臨むこと」への質問があり、「教育人事交流者の目的にそった協力が重要」と話されました。人事交流を受け入れた5階西ナース・ステーションの三浦師長からは、スタッフ等と良い関係をつくり積極的に実践していたこ

とや交流期間等の関係で交流計画にそった業務調整が難しい側面があったことから、臨床と交流者の打ち合わせが重要であるとのことをご意見をいただきました。

滝本さんは3週間の成人看護学実習Ⅰ（急性期）に参加し、臨床指導者や教員の視点で臨床指導を行うとともに、実習企画や運営等の全体像の理解、実習前後での学生の反応やレポートから振り返りを実践しました。コロナ禍によりmanabaを活用したオンライン実習や病棟実習時間の短縮、患者との対話時間が制限されるなどの現状から、実習体制の工夫や学生への配慮などについて臨地実習の課題や学びを報告しました。会場から「今後の実習指導における注意点」の質問があり、「学生に寄り添って学生の気持ちを理解することが重要」と述べました。人事交流を受け入れた成人看護学領域の阿部教授からは、コロナ禍における学生と接する姿を見て、学生への声かけや寄り添い方など教員としても学ぶことがあったとの感想をいただきました。

野中先生、滝本さんには教育人事交流終了直後という状況に加え、年度末のお忙しい中で報告会の準備をしていただき心より感謝申し上げます。

旭川医科大学看護学科と大学病院看護部が連携して教育人事交流を行うことで、看護職の効率的・継続的な専門能力の習得と向上が図られ、看護職のキャリア開発につながるものと考えます。教育人事交流事業に興味を持たれた看護教員・看護職の方は、所属上司にご相談の上、是非、申請をしていただきたいと思います。スタートしたばかりの教育人事交流事業ですが、今後さらに充実し発展できますよう皆様のご協力をお願い申し上げます。



報告者 看護学科高齢者看護学領域 野中 雅人 先生



報告者 ICUナースステーション 滝本 梨奈 さん

# 「地域を紡ぐかんかんセミナー」を開催しました

看護職キャリア支援センター 地域看護職支援部門

看護職キャリア支援センターの地域看護職支援部門では、「看護職の連携に関するニーズ調査」に基づき、その人らしい地域での療養生活を支援できるよう訪問看護師と大学病院看護師がつながり、互いの看護実践能力の向上に寄与することを目的として「地域を紡ぐ

かんかんセミナー」を開催いたしました。「かんかん」は看護と看護の連携（看看）を意味し、ICTを活用した新北海道スタイルで広大な地域を紡ぎ、学び合い語り合える場を目指しています。

	日時	内容
第1回	2021年 8月5日（木）	OPENINGセミナー 報告「訪問看護事業所の連携に関するニーズの実態」 ミニレクチャー「在宅での感染対策のポイント」 <span style="float: right;">講師：石上香感染管理認定看護師</span> リレートーク「新型コロナ禍での看護を語る」 参加者：訪問看護ステーション18名、院内10名／計28名
第2回	2021年 11月19日（金）	テーマ「住み慣れた家で最期まで望む暮らしの実現に向けて」 ミニレクチャー「アドバンスケアプランニング 人生の大切な話し合いを始める」 <span style="float: right;">講師：尾崎靖子がん看護専門看護師</span> 事例検討「患者の望む暮らしのために病院・訪問看護でできることは何か」 参加者：訪問看護ステーション、保健所、大学19名、院内12名／計31名
第3回	2022年 3月22日（火）	テーマ「住み慣れた家で最期まで望む暮らしの実現に向けてPart II」 ミニレクチャー「終末期のせん妄ケア」 <span style="float: right;">講師：清水知沙がん看護専門看護師</span> 事例検討「残された時間の過ごし方～本人と家族の思いが異なるとき～」 参加者：訪問看護ステーション13名、院内10名／計23名

受講者の感想として、「基本的な感染対策を再認識し、認知症の方の感染対策や他の事業所の感染対策も参考になった」「ICTを用いた退院前カンファレンス、患者・家族との面談等を進めていきたい」「入院中から訪問看護が介入し、家での生活をイメージできるよう関わることができるのではないか」「地域で待っている看護師がいることを心強く感じた」「在宅看護の実際やケアの視点を考えることができた」「病院看護師と訪問看護師の連携や情報共有の場がもっとあるといい」などの声が聴かれました。セミナーを通して、参加者同

士の顔の見える関係づくりやICT活用の必要性が認識でき、それぞれの立場の看護職が地域を超えて看護を語り合える貴重な機会になったのではないかと思います。道内各地、遠方は稚内や釧路からの参加があり、ICTの活用はコロナ禍に限らず広大な北海道では移動時間を気にせず気軽に参加できる有効な方法と感じています。かんかんセミナーは今年度も3回開催を予定しています。ご参加いただければ幸いです。（詳細は「看護職キャリア支援センター」のホームページをご覧ください）



事例検討の様子



全体会の様子



## 薬剤部 新薬紹介(82) 組換え沈降9価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン (シルガード® 9水性懸濁筋注シリンジ)

組換え沈降9価ヒトパピローマウイルス (HPV) 様粒子ワクチン (商品名:シルガード® 9水性懸濁筋注シリンジ、以下本剤) は、昨年2月に発売された9価HPVワクチンである。当院では昨年6月より通常採用となっている。

本剤は、HPVのうち子宮頸がんの主な原因となる7つの型と、尖圭コンジローマの主な原因となる2つの型のL1蛋白質ウイルス用粒子を含んでいる。子宮頸がんの原因となるHPV型の約90%をカバーするとされており、HPVが関連する疾患予防の新たな選択肢として期待されている。

用法・用量は、9歳以上の女性に1回0.5mLを合計3回筋肉内に注射する。通常、2回目は初回接種の2ヶ月後、3回目は6ヶ月後に接種する。重要な基本的注意として、既存のHPVワクチン同様に、接種後の血管迷走神経反射に伴う失神や、発生機序不明の長期間にわたる疼痛の発現などがある。

接種部位は、通常、上腕三角筋であるが、困難な場合

は大腿前外側部へ接種することができる。接種不相当者としては、発熱や重篤な急性疾患のある者、本剤の成分に対して過敏症を呈したことがある者などとなっている。また、妊婦は接種を避けることが望ましいとされている。

昨今の話題として、HPVワクチン接種の積極的勧奨再開に触れておきたい。HPVワクチンは2013年4月から定期予防接種となったが、接種後に持続的な痛みがあるという報告が急増し、同年6月から接種勧奨が差し控えられていた。昨年の専門家会議で、他の定期接種ワクチンと比べて安全性が特に低いわけではないことが確認され、子宮頸がんを予防できるという有効性が副反応のリスクを上回ると認められた。これを踏まえて積極的勧奨が本年4月より再開された。定期接種の機会を逃した1997年4月2日から2006年4月1日生まれの女性はキャッチアップ接種を受けることができる。ただし、現時点で公費接種の対象である当院採用薬はガーダシル® のみで、本剤は全額自己負担となる。  
(薬品情報室 寺川 央一)

## 臨床検査・輸血部発 その検査結果の数値、実は「スゴい」んです。

皆様がよく目にする臨床検査の結果、特に血液などの検体検査における結果はその品質を維持するため、様々な手法により精度や正確さを管理された上で報告されていることをご存知でしょうか。単なる数字の羅列に見えますが、その一つひとつの項目には臨床検査技師の弛まぬ精度管理の下、提供されています。今回は我々が行っている「精度管理」について一部ご紹介いたします。

まずは「XbarR (エックスバーアール) 管理図」です (図1)。これはグラフの上下にバラツキの幅を設定し、安定して正しく検査が実施できているか判断する手法です。工業が発祥で工場などの製造業分野で用いられています。毎日多いときは3回、擬似血液 (精度管理物質) を用いて、そのバラツキを分析・管理しています。またグラフの動きで機器の不調も予測できます。ちなみに救急やICUの血液ガスもこの手法で精度管理しています。管理される幅は厳しく設定され、幅の逸脱が検出された場合はただちに検査機器の動作確認やメンテナンスを行い、再検査を実施します。

また年に数回、日本医師会や日本臨床衛生検査技師会などが測定結果を調査する「外部精度管理調査」にも参加しています (図2)。これは例えるなら

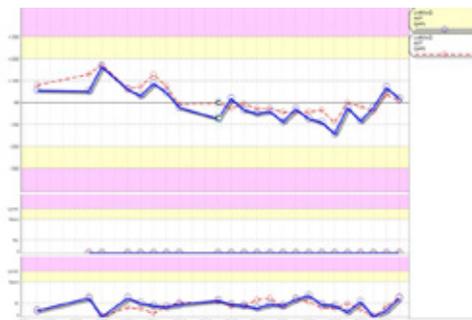
「学校の“期末試験”」であり、第三者が定期的に我々の検査技術の正確さをテストしま

す。このテストで悪い成績を取った場合はテスト当時に報告した結果を見直し、その根本原因を考えて是正処置を行い、再発防止を図ります。

加えて、当部では国際規格であるISO15189を取得しているため、JAB (日本適合性認定協会) より上記について定期的に監査されることで、より正確さ・精密さを維持しています。

以上の方法で、検査結果の数値も工場で生産された部品のように、厳しい基準をクリアして臨床の場や患者様の元へ高品質に提供されています。これからも厳しく管理を続け、質の高い検査結果を提供し診療に貢献できるように続けてまいります。何卒宜しくお願い致します。

(野澤 佳祐)



**「いのち、暮らしを、まもる人。」看護の日・看護週間 看護部総務委員会**

21世紀の高齢社会を支えていくためには、看護の心、ケアの心、助け合いの心を、私たち一人一人が分かち合うことが必要です。こうした心を、老若男女を問わずだれもが育むきっかけとなるよう、近代看護を築いたフロレンス・ナイチンゲールの誕生日でもある5月12日に「看護の日」が制定されました。



2019年末に発生した新型コロナウイルス感染症は3年目に突入し、2022年の現在も感染者数は減少することなく、3密を避けた対策の徹底が毎日、呼びかけられています。ナイチンゲールは、著書『看護覚え書』で、「看護とは、新鮮な空気、陽光、暖かさ、清潔さ、静かさを適切に保ち、食事を適切に選択し管理すること。こういったすべてを、患者の生命力の消耗を最小にするように整えることを意味すべきである」と述べています。看護師は昔も今も、最適な療養環境を整え、人々のいのちと暮らしをまもるプロフェSSIONALとしての役割が求められています。

今年の当院の看護の日のイベントとして、昨年に引き続き、患者や家族、病院スタッフの方と看護のすばら



しさを共有するために「看護エピソード」を募集し冊子を作成し、デザインを新しくしたメッセージカードとともに配布しました。今年のエピソードは、一般の方からは4通、医療者の方からは3通の応募がありました。一般の方からは、入院中の不安な時や辛い時に、何気ない看護師とのやりとりが、その後の治療やリハビリテーションに前向きに取り組むきっかけとなったことが書かれていました。看護師からは、入職して間もない時期に、患者さんからかけてもらった言葉が、自分の自信に繋がったという内容でした。メッセージカードを受け取った患者さんからは、メッセージを読むことで、手術や治療の励みになったという声がありました。

2022年は新型コロナウイルス感染拡大の繰り返し、そしてウクライナ危機と暗いニュースが続きましたが、変わりゆく社会の中で、時代は今まで以上に医療と看護を必要としています。看護の日をきっかけに身近な人の健康を考え、命を支え、希望に繋がることを願います。

2022年は新型コロナウイルス感染拡大の繰り返し、そしてウクライナ危機と暗いニュースが続きましたが、変わりゆく社会の中で、時代は今まで以上に医療と看護を必要としています。看護の日をきっかけに身近な人の健康を考え、命を支え、希望に繋がることを願います。

**2021年度 患者数等統計**

(経営企画課)

区分	外来患者延数	一日平均外来患者数	院外処方箋発行率	初診患者数	紹介率	入院患者延数	一日平均入院患者数	稼働率	前年度稼働率	平均在院日数(一般病床)
	人	人	%	人	%	人	人	%	%	日
1月	28,146	1,481.4	97.1	1,044	88.0	14,155	456.6	75.8	75.9	11.3
2月	26,025	1,445.8	97.1	964	86.5	12,962	462.9	76.9	81.8	11.5
3月	33,217	1,509.9	97.2	1,133	91.3	14,719	474.8	78.9	80.3	11.3
計	87,388	1,481.2	97.2	3,141	88.7	41,836	464.8	77.2	79.3	11.4
累計	367,131	1,517.1	97.1	12,653	93.4	169,990	465.7	77.4	80.8	11.2

**時事ニュース**

- 4月6日(水) 入学式
- 5月12日(木) 看護の日
- 5月8日(日)～5月14日(土) 看護週間
- 7月7日(木) 参議院議員通常選挙不在者投票



**広報誌編集委員会 名簿**

区分	氏名	所属	職名
1 委員長	谷野美智枝	病理部・病理診断科	教授
2 委員	市川 英俊	産婦人科学講座	講師(学内)
3 委員	石子 智士	医工連携総研講座	特任教授
4 委員	竹川 政範	歯科口腔外科学講座	教授
5 委員	野澤 佳祐	臨床検査・輸血部	主任技師
6 委員	小枝 正吉	薬剤部	特任専門員
7 委員	金田 豊子	看護部	副看護部長
8 委員	渡邊 啓子	総務課	課長補佐
9 委員	市川 さら	経営企画課	係長